

第176回防衛調達審議会議事要旨

1 日時

令和4年10月19日（水）10時00分～12時40分

2 場所

防衛省庁舎A棟11階第1省議室

3 出席者

（委員）

河村会長、片岡委員、柴山委員、西谷委員、藤川委員、星委員

（防衛省）

防衛装備庁 春日原長官官房審議官、萬浪装備政策部長、森調達管理部長、柴田調達事業部長、渡野監察監査・評価官（事務局）

中島統幕首席後方補給官、上田陸幕装備計画部長、海幕装備計画部長代理装備需品課課長、小島空幕装備計画部長

4 議題

- （1）随意契約に係るサンプリング調査審議（令和3年度 陸上自衛隊九州補給処）
- （2）1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（陸上自衛隊）
- （3）1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（防衛装備庁（第2回））
- （4）次回の日程等

5 議事概要

（1）随意契約に係るサンプリング調査審議（令和3年度 陸上自衛隊九州補給処）

令和3年度に陸上自衛隊九州補給処が締結した契約の中から、サンプリング調査審議の対象として委員が抽出した「車両（装輪）純正部品」及び「敷設車（94式水際地雷敷設装置用）の改造」の2件について審議を行った。

（車両（装輪）純正部品 契約の概要）

本件は、補給カタログに基づいた31/2tトラックの品質が保証されている純正部品を調達するものである。当該部品は本装備品の製造企業の仕様、規格、基準

に基づき製作されたものである。

【事前調査における論点等】

① 陸上自衛隊全体及び九州補給処の31／2tトラックの保有台数、入替え台数（毎期）、耐用年数について示されたい。

② 31／2tトラックに係る部品の必要数量と予算との関係、また交換実績の関係について具体的に表などで示されたい。

なお、予算がないため購入できなかった部品について各補給処間の物品管理替えした実績について示されたい。また予算不足により理想的な購入を歪めているのであればその説明をされたい。

③ 割引率は誰がどのように決定するのか説明されたい。また例年同様の割引率を見直すために他の補給処等の購入価格等と比較したり、その結果を基に価格を算定することはないのかも合わせて説明されたい。

なお、割引率の妥当性について、大口企業と同一であるという条件以外に検討された条件があるのか、検討した場合は、検討内容について説明されたい。

【本審議】

（資料に基づき防衛省側から説明）

（車両（装輪）純正部品）

事前調査の論点①、②及び③について

委：予算上の関係で車両部品が購入出来なかったことにより、31／2tトラックが非可動になっていることはあるのか。

防：1年未満ではあるが、車両部品不足が原因で非可動となっている車両がある。

委：災害も含めた有事に備え、非可動の車両を無くすように部品を購入すべきである。

委：予算額内で必要数量を購入できるよう、関東補給処が一括調達を実施し、割引率が高い価格で車両部品を購入してはどうか。今後、これまで以上に効率的、かつ、経済的な調達ができるようロジスティックスのあり方について抜本的に見直すべきではないか。

委：部品毎の性質を考慮しつつ、予防整備に関する部品の調達において平準化を検討すべきではないか。

防：検討していきたい。

(敷設車（94式水際地雷敷設装置用）の改造契約の概要）

本件は、電波法（昭和25年法律第131号）の改正及び94式水際地雷敷設装置の製造中止品により使用不能となることを防止するため、機器構成を変更し新システムの器材へ置き換え作業を実施し、操作性と整備性の向上を図るものである。

【事前調査における論点等】

電波法適合に伴い改造した15台について、本来まとめて役務契約を締結した方が、効率的かつ経済的であると考え、年度及び調達実施機関（補給処）を分割したことによりこれらが阻害されていない理由及び契約を分割されたことによる実益について説明されたい。

なお、予算上の制約等により、分割して購入せざるを得ない状況であった場合、効率的かつ経済的に購入する工夫をどのように実施したのか具体的に説明されたい。

また、15台全ての計算価格の内訳及びその妥当性の検証説明が記載された比較表を示し、説明されたい。

【本審議】

(資料に基づき防衛省側から説明)

(敷設車（94式水際地雷敷設装置用）の改造)

事前調査の論点について

委：経済的に調達するために補給処毎の契約ではなく、中央調達において一括で当該役務契約を実施した方が良かったのではないか。

委：緊急性が高いものから調達を要求しているのか。

防：上位機関が、緊急性の高いものから調達を要求していると認識している。

(2) 1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（令和3年度防衛装備庁）

【1者応札案件に係るサンプリング調査審議案件1件】

① インクジェットプリンタ GPR-36ほか1件

【1者応募案件に係るサンプリング調査審議案件1件】

② 火力戦闘指揮統制システム（検証用）検証機用ソフトウェア改修

【仕様書等に係るサンプリング調査審議（複数者応札）案件1件】

③ 技術役務（TH-480B機体及び関連装備品）

【事前調査における論点】

① インクジェットプリンタ GPR-36ほか1件

- ・令和3年度及び過去の類似案件の調達状況（品名、仕様の違いの有無、契約条項、契約時期、応札者、契約相手方、契約金額、調達要求数量及び落札率等）について説明されたい。
- ・2902台の大量発注により1者応札となった可能性があるとのことだが、計画的発注や、納期分割などの工夫が出来なかったのか説明されたい。
- ・スケールメリットの具体的な効果を算定して説明されたい。またエディオン店頭価格との差額についても説明されたい。その際に追加インクの価格も含めて比較された資料を示されたい。
- ・大量に発注することを事前に公表し、メーカ製造分を押さえる場合に障害となっているルールを具体的に説明されたい。また、前回、前々回の発注年度、発注方法を追加資料として示し、説明されたい。
- ・プリンタの耐用年数を示されたい。また、今後はペーパーレス化に伴い、計画的に数量を減少することは考えているのか説明されたい。

② 火力戦闘指揮統制システム（検証用）検証機用ソフトウェア改修

- ・システム全体の概要、規模、今後の予定を含む全体のスケジュール及び本調達プロジェクトの位置づけを説明されたい。
- ・ソフトウェアの改修にもかかわらず19億円という契約金額なので相場観がわかる資料を示されたい。（価格算定の内訳資料等）

③ 技術役務（TH-480B機体及び関連装備品）

- ・TH-480B全体（機体を含む）の調達実績と技術役務の調達実績について示されたい。
- ・TH-480Bの調達、運用、廃棄までの一連の流れを示した上で、当初の計画において毎年約5,000万円の技術役務が必要となることは、金額的、時期的にも計画通りに進められているのか説明されたい。
- ・エアロファシリティー及びジャムコそれぞれの下見積書の項目及び金額を示し、説明されたい。
- ・ジャムコの応札金額を示されたい。
- ・過去の類似案件（品名、調達内容、数量、応札者、応札金額）を示されたい。
- ・役務の具体的な内容について詳細を示されたい。また、当該技術役務の相場がわかる資料を示されたい。

【本審議】

(資料に基づき防衛省側から説明)

① インクジェットプリンタ GPR-36ほか1件

委：大量に発注することを事前に公表し、メーカ製造分を押さえることは現行制度上難しいことは理解したが、今後はこのような大量に発注する場合において何らかのアプローチができるよう検討した方が良いのではないかと。

防：承知した。

委：2902台は契約相手方の在庫品かもしくは落札後に製造メーカへ発注したのか。

防：公告と同時に契約相手方が製造メーカへ発注したとのことである。例え落札できなくても自社の販売網において販売するとのことであった。

② 火力戦闘指揮統制システム（検証用）検証機用ソフトウェア改修

委：契約の性質上、長期的な安定性がある企業であることを考慮した調達要求にした方が良いのではないかと。

③ 技術役務（TH-480B機体及び関連装備品）

委：当初想定した不具合件数より増加傾向にあるとのことだが、その要因は何か。

防：現状として不具合の件数が増えているが、その原因は現在確認中である。

委：不具合が発生する想定を高めないと金額が上昇する可能性がある所以要領の見直しを検討されたい。

防：承知した。

（３）１者応札・１者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（令和３年度 防衛装備庁（２回））

【１者応札案件に係るサンプリング調査審議案件２件】

- ① 艦上連接確認作業
- ② 諸外国の長射程ミサイル等に関する検討役務

【１者応募案件に係るサンプリング調査審議案件２件】

- ③ 試験準備（極超音速風洞試験器材の製造）
- ④ 装備品等に搭載する公共専用信号対応マルチGNSS受信機の検討

【仕様書等に係るサンプリング調査審議（複数者応札）案件２件】

- ⑤ 国外展示会（DUBAI AIRSHOW 2021）参加役務

- ⑥ 装備品等の代替案分析に関する技術調査（極超音速誘導弾、新型短距離弾道ミサイル等への対処能力を有するシステム、精密砲弾（155mm用）

【事前調査における論点】

① 艦上連接確認作業

- ・JMUが入札しなかった理由を調査されたい。
- ・JMUにとって元請会社となるリスクと試作ソフトウェアの製造会社ではない客観的立場から点検するという牽制を効かせることの重要性（官にとって）とのトレードオフについて、JMUに実態及び経営判断について確認されたい。
- ・改善策につながるように、試作、役務内容の前半、後半との関係性についてもう少し詳しく明示していただきたい。

② 諸外国の長射程ミサイル等に関する検討役務

- ・想定された応札可能者を示されたい。
- ・三菱重工業と川崎重工業の見積を項目別に比較し、説明されたい。
- ・1回目及び2回目における応札価格を示し、説明されたい。
- ・調査報告書のクオリティは、公開されているレベルの情報と比較し、どの程度付加価値の高い情報が入手できたのか説明されたい。

③ 試験準備（極超音速風洞試験器材の製造）

- ・三菱重工業機械システムのGCIPについて説明されたい。
- ・本案件に限らない課題であるが、他社応札の可能性が事実上ない場合への対処を説明されたい。

④ 装備品等に搭載する公共専用信号対応マルチGNSS受信機の検討

- ・本件は、共通化、他社参入の可能性が広がる業務とも言えるが、本件は三菱電機のみが落札しており、品質等において不祥事が発覚した三菱電機が誠実に業務を行わないことも予測されるが、それを防止する策を説明されたい。
- ・本案件に限らない課題であるが、他社応札の可能性が事実上ない場合への対処を説明されたい。
- ・本報告書の成果を後日活用する段階で、どのようによりよい調達に結びつけていくかという展望があるとより具体的な改善策が見つかるのでは。

⑤ 国外展示会（DUBAI AIRSHOW 2021）参加役務

- ・応札者の他に履行可能な者と想定される先はないか説明されたい。

- ・ 予定価格の算定にあたり取得した下見積もりの価格を示されたい。
- ・ 将来の量産契約獲得が期待できる案件と異なり、本件は採算度外視で応札価格を下げられる案件ではないと思われる。そのため、本件の下見積もりが適正な価格より高く、これにより予定価格も上振れしたのではないかと考えるが、本件の落札率が低めとなった理由について上記の考えを踏まえて説明されたい。また、ノイが他に落札した契約案件の落札率を調査し、同様に落札率が低めになっているか示されたい。(今後の予定価格算定時に参考になるはずである。)

⑥ 装備品等の代替案分析に関する技術調査(極超音速誘導弾、新型短距離弾道ミサイル等への対処能力を有するシステム、精密砲弾(155mm用))

- ・ 総合評価落札方式での評価結果を説明されたい。
- ・ グローバルな体制にある受注先における情報セキュリティ管理の確認はなされているのか説明されたい。

【本審議】

(資料に基づき防衛省側から説明)

① 艦上連接確認作業

特段の意見なし。

② 諸外国の長射程ミサイル等に関する検討役務

委：検討内容及び提出物の適否についてどのように判断しているのか。

防：仕様書の要求事項である契約相手方との定例会議において、適宜、検討内容や提出物について調整した上で、要求内容と照合し、適否の判断をしている。

③ 試験準備(極超音速風洞試験器材の製造)

委：防衛産業のあり方にも関わるため、(標準個別経費率を設定していない)GCIPについて官としての考え方を検討されたい。

④ 装備品等に搭載する公共専用信号対応マルチGNSS受信機の検討

委：今後の改善策として、将来的に当該検討結果を反映した契約を締結する際に、競争性がある入札となったのかチェックできる方策があった方がいいのではないかと。

防：承知した。

⑤ 国外展示会(DUBAI AIRSHOW 2021)参加役務

委：見積価格を基に予定価格を算定しているとのことであるが、応札価格が見積価格よりかなり下回っているため、官として見積価格の妥当性の検証をより慎重に実施していくべきではないか。

防：承知した。

⑥ 装備品等の代替案分析に関する技術調査（極超音速誘導弾、新型短距離弾道ミサイル等への対処能力を有するシステム、精密砲弾（155mm用）

委：総合評価の評価項目として、ワークライフバランスがあるが、今後はそれ以外のビジネスと人権についても評価項目の対象になるのか。

防：ビジネスと人権については政府全体として取組む事項として評価項目対象としており、今後も評価項目が増えると予想されるので、適切に対応したい。

（４）次回の日程等

次回は11月16日（水）の開催の予定。詳細については、事務局から後日連絡。